

◆企画広報室より

企画広報室 高橋 達也

みなさんこんにちは！

新年度が始まり1ヶ月が経ちましたが新入生の皆さんは学校生活に慣れてきましたか？皆さん、入学したての時よりも『気持ちの良い挨拶』が出来るようになりましたね。『挨拶』はコミュニケーションの基本です。就職活動等でも大切なことですので、引き続き頑張りましょう。

また、就職活動中の学生の皆さん、就職活動が思うようにうまくいかない時もあるかもしれませんが、引き続き体調管理には十分に気を付けて頑張りましょう。自分自身で限界を作らず、何にでもチャレンジして下さい。皆さんの夢が叶うよう応援しています！！さて、企画広報室では本学の学生募集の活動として、オープンキャンパスの開催や皆さんの出身高校への訪問など年間を通じて様々な活動をしています。

学生の皆さんは、高校卒業後に母校を訪ねたことはありますか？みなさん自身もぜひ母校を訪問してみてください。目標に向かって頑張る姿は、お世話になった先生方に伝わると思います。

また、学生の皆さんは是非、本学2号館1階にある企画広報室に遊びに来てください。そこで、皆さんから教えて頂く近況については、高校訪問の際に必ず先生方にお伝えします。恩師の先生に伝えたい事や伝言等、話題は何でも構いませんので、何でも教えて頂ければと思います。

今月も引き続きオープンキャンパスを開催します。すでに後輩の皆さんへ本学の紹介をしてくれた方もいて、直接お問合せを頂きました。今後も「電子情報」や「福祉医療」を目指す方々へ告知をして頂けると有難いです。皆さん、宜しくお願い致します。これから更に中村学園を盛り上げていきましょう！

オープンキャンパス開催日程

お仕事体験を通じて、自分の将来を考えよう！

学校・学科説明会、ミニ体験、なんでも相談会

・5月13日(水) 17:00~18:30

学校・学科説明会、体験入学、なんでも相談会

・5月24日(日) 9:30~12:00

☆保護者対象説明会、学費等納付金・奨学金説明会も同時開催☆

◆「面接」通過のポイントは、「質問の意図」を理解し、それに答えること

進路 橋野 幸男

採用活動が本格化し、マスコミ報道でも「就活」・「採用」関連の記事が増えています。

- 例えば、
- a. 「日経産業新聞」4月16日・17日：『経団連の新指針下、就活本格化』（“日時指定の選考、8月から”、“外資例年通り、実態長期化”）
 - b. 「産経新聞」4月15日、<就活コンシェルジュ>：『応募書類に“誇張”は不要。大切なのはいかに“自分”を伝えるか』
 - c. 「日本経済新聞<電子版>」4月9日：『大学就職課が語る、売手市場で内定が取れない学生』
 - d. 「日本経済新聞」4月6日：『就活本番、面接の秘訣』

などがあります。このうち、皆さんがタイトルに興味を持つであろう「c.」の一部を抜粋します。

- ・「15年卒の内定率が前年に比べて15ポイントも上がった。かなり異常な数字で、16年卒採用が不透明なので多めにとった可能性はある。この反動で16年卒は内定率が下がる、つまり内定がとれない学生が増えるのでは」という危機感がある」

内定がとれない学生はどんなタイプか、という質問に、

- ・「ここ数年で就業意欲やコミュニケーション能力が極端に低い学生が増えている。内定がとれない学生に共通するのは、ゼミにもサークルにも入らず、世間との関係を絶っているケース。こういう学生は、挨拶などの基本動作ができず、売手市場であっても企業から敬遠される」

- ・「模擬面接をした時、『どう答えればいいんですか？』、『何が正解ですか？』と答えを求めてくる学生はダメ。正解などなく、自分で考えて判断するしかない」

- ・「内定をしっかりとる学生に共通しているのは、普通のことを普通の言葉で、自分で考えてわかりやすく話せる能力。将来のキャリアを意識しながら学生生活を送れていると、自信を持って話せるケースが多い」

これに対し、「CANジャーナル」No.322『平成27年度を迎えて』で理事長・校長先生がお書きになっている「2.学校生活に確固たる目標を持って!」、「8.就職活動の面接指導：『己の人生を切り拓く就活!』」の教えを実践する本学学生。皆さんには、前掲の大学就職課が語っているような心配は、不要だと確信しています。

最後に、「d.」に関連して、もうひとつデータを紹介します。「採用担当者が面接で『ダメだ』と思う学生は?」というアンケートの結果です〔日経 HR『人気企業の採用活動に関するアンケート調査』(2013.4)。複数回答。30%以上の項目を抽出〕。

1位	質問の意図をくみ取れていない	65.9%
2	目を見て話さない	52.3
3	内容が論理的でない	40.9
4	内容に説得力がない	38.6
5	内容にまとまりがない	36.4
6	話が長すぎる	34.1

採用選考における最大の関門は、「面接」です。その最重要のポイントは、「採用担当者の『質問の意図』に的確に答える」ことです。そして、「質問の意図」=彼らが「面接で確認したいこと」の中心は、次の2点です。

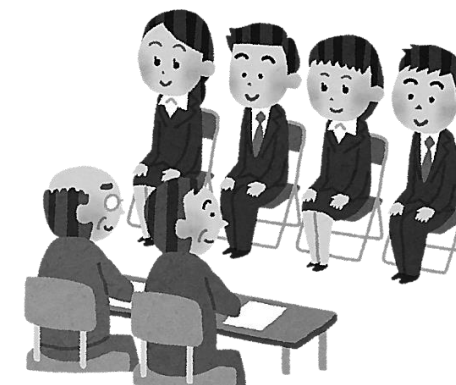
A	「専門性」に加え、物事に取り組む際の「考え方や行動特性」から、自社の「仕事への適性」があるかどうか <「できる」>	学生の「経験」から「将来の活躍」を予測
B	自社への「入社意欲」がどれだけ高いか <「やりたい」、「合っている」>	十分な「企業理解」から「入社意欲」を感取

このA、Bを確認する質問が、次の、いわゆる「面接の三大質問」です。

A ⇒ 「自己PR」、「学生生活で力を入れたこと」
B ⇒ 「志望動機」

この大枠を理解した上で、諸準備を進めてください（更に詳しいポイントは、授業で）。

皆さんの奮起と健闘を期待します。



◆御殿場宿泊研修を終えて

1年学年主任 齋藤 秀樹

平成27年度の新入生を対象に、「挨拶を基本とした本学の学生としての心構えを身に付けるとともに、一人でも多くの心の友（親友）をつくる」ことを目的とし、恒例の御殿場国立中央青少年交流の家での2泊3日の宿泊研修を実施しました。

社会に出て働くことのできる人材になるために、本学のパイオニアの精神を基調とした「建学の精神」のもとに集った学生たちが、これからの学校生活をより意義のあるものとする、その重要なスタートとなりました。

「感謝の気持ち忘れず、人を思いやる心を持ち、自ら進んで行動すること」や「共に学び、利害を超えて助け合うことのできる真の友人」の存在。さらに、「自分自身の目標を再認識し、自らに付加価値を付ける事」が大切です。

学生の皆さん、校長先生を初め、先生方から教えて頂いたことを胸に、自分の目標（夢）に向かってその日その瞬間を精一杯、全力で取り組み、充実した学生生活を送りましょう！！その結果として、自分の理想とする就職先を見つけ、内定を勝ち取りましょう。

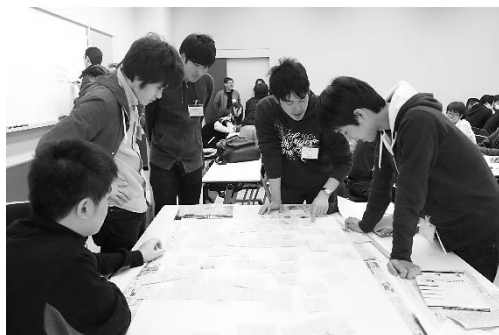
今回の研修を通して得た貴重な経験について、各学科の代表の学生による報告を以下に述べます。

ICT情報システム学科 北 憲明

私はこの3日間の研修で多くのことを得ることができ、更に自分の課題点を見つけることができました。

TQC活動ではより良い就職をするためには、専門スキル、一般常識、社会人基礎などが必要という結論になりました。これからの学校生活でこれらの能力や知識を習得できるよう努力していきます。またTQC活動の発表の文章を考える際に、自分の文章力のなさを痛感しました。これから文章力を身につけるために頑張っていこうと思います。

礼法の講義では、今まで使っていた礼が正しい作法ではなかったこと、目上の人に対しての礼儀など今まで知らなかったこと、何気なくやっていたことが無礼だったことなど、今後人生で知っておかなければならないことを学ぶことができました。これから教わったことを実際に使っていきたいです。



今回の研修で学んだことをこれからの学生生活に活かせるように頑張っていくとともに、自分の苦手なところや、これから身につけていかなければならないことをこの2年間という短い時間で身につけていこうと思います。

ICT映像・音響デザイン学科 高山 翔

今回の宿泊研修で、一番学んだことは、礼儀やマナーの大切さです。特に挨拶では今回の研修を通して非常に大切だということが改めて分かりました。僕は普段挨拶を自分から進んでするほうではありませんでした。しかし、礼儀作法の尾崎先生に挨拶をする人として人とは最初の印象が大きく変わり、また相手の気持ちもこれによって変わることが分かりました。また、厳しさの中に僕たちを誰よりも思いやる心も感じられ、丁寧にお辞儀の仕方や食事をいただくときのマナー、正座の仕方など優しく教えていただきました。そして僕は、この研修で挨拶を自分から進んでできるようにしようと思いました。先生や他の団体の方達に会ったときや宿泊所で食事を頂くときは必ず、「おはようございます」「いただきます」など言うように心がけました。これから就職活動を始め、企業の方達と交流していく中で良い印象を与えられるようにしていきたいと思います。

総合福祉学科 後藤 淳貴

宿泊研修を通して学んだ事がたくさんあります。その中で強く心に残った事が2つあります。

1つ目は社会に出てからの必要な事は介護技術や相談援助技術等の福祉関係の事だけでなく、礼法も身につける事が大切であると学びました。礼をするにTPOに合わせたやり方があると知り、改めて挨拶の重要性を痛感する事ができました。これからは明るく元気のいい、相手に気持ちの伝わる挨拶をしていこうと心に決めました。

2つ目はTQCでのグループワークです。慣れていないクラスメイトとより良い就職に繋がるために必要な事を話し合い、考えをまとめ発表に繋げる…初めての事に戸惑いや緊張もしましたが話し合いを続けるうちに「心の友」の意味や自分の将来について改めて考える事ができ目標を明確にする事ができました。

これからの3年間でしっかり勉強をして、目指している職業に就けるような目標をぶれない軸を持ち努力し続けていこうと思っています。

介護福祉学科 加藤 有沙

私は、この研修で一番印象に残っているのは、礼儀作法についてです。礼儀作法では、実際に正座をして研修を受けることで礼儀の意味、作法の意味など礼儀作法の知識を身にしみて理解することができました。また、正座の後に教えていただいた挨拶の仕方も覚えることができました。これから実習やボランティアに行った際は、今回学んだことを活かしていきたいと思います。

私は相手を敬う気持ちを胸に、相手の気持ちになり、思いやりのある声かけや行動のできる人間になりたいと思いました。そのためにも、自分から挨拶をしたり、挨拶をされたら笑顔で挨拶を返すことを心掛け、第一印象を良くできるよう頑張っていきたいです。

子ども心理学科 山本 璃奈

二泊三日の宿泊研修を終えて学んだことが二つあります。それは、人間関係と挨拶の大切さです。

TQCを進める中で意見がなかなか話し合えず、たくさん喧嘩し、たくさん泣きました。そうした中で完成させたTQCは私にとって一番大きな出来事でした。ちゃんと相手の意見を受け入れつつ自分の意見をしっかりと言えばスムーズに出来るということを知りました。この学びを頭に入れ、たくさんの人と良い関係を築いていきたいと思っています。

また、保育士は子どもだけでなく保護者とも関係を築いていかなければならない職業です。校長先生が、人間関係を築くためには挨拶からとおっしゃっていたので、挨拶を基本とした生活を心がけていき、社会人になる前までに自然と身に付けていきたいです。そして子どもにも保護者にも安心してもらえる保育士になりたいです。

医療情報秘書科 伊藤 愛

今回の研修で私が決意したことは、「相手を思いやり、自ら手を差し伸べる人間になる」ということです。

「親にもちゃんと感謝していこうよ」、尾崎先生から厳しい言葉を頂き、心に響いた2日目の「礼儀作法」の授業。つまりいたこともあったけれども、自ら班に協力し、自分の能力を発揮することができた、3日間の「TQC活動」。しかし、自分に欠落している部分もあり、友達に迷惑をかけてしまったこともありました。

研修全体を通して気がついたことがあります。それは、「相手を思いやる」ということです。礼儀も、TQC活動も、この研修は「思いやりの心」がなければ行うことができないと考えたからです。それは、医療事務員になるためにも必要なことです。窓口での業務をこなすだけでなく、視野を広げ、どんな些細な患者さんの要望にも応えられるように、たった2年間しかない学生生活で、仲間や誰にでも手を差し伸べられる自分になります。

